

語りべさんに
きいてみた！

「網野の歴史を、ぜひ
楽しんでってください！」



語りべ
三浦 到さん

「網野町は、あの浦島太郎にまつわる伝説が有名だと伺ったのですが、それについて詳しく教えてください！」

「浦島伝説は、奈良時代に作られた『丹後国風土記』に載っている話で、丹後国と謝郡伊根町が舞台となっています。そして、ここ網野町にもその浦島伝説の伝承地が数多く残っています。例えば、浦島太郎を祀る神社として、網野神社、嶋児神社、六神社があり、乙姫を祀る神社としては西浦福島神社があります。また、釣溜（つんだめ）という浦島太郎が漁で釣った魚をビクに入れて海水につけていたと言われる岩場などもありますね。このように、網野町は浦島太郎とは非常に縁のある土地なんです。」

「そのほかにも、網野や丹後の歴史について知ることの出来るおすすめの場所はありますか？」

「『網野銚子山古墳』でしょうか。全長 198m の日本海側（日本海に面する府県）最大の前方後円墳です。4 世紀後半に築造されたもので、古代に丹後王国が栄えていたことを示す巨大古墳となっています。」

「最後に、始めて網野に来た方に、「ここだけは行ってほしい！」という網野の歴史にまつわる場所はありますか？」

「うーん、やっぱり網野神社ですかね。平安時代から続く神社で、浦島太郎が祀られていたり、建物群は国登録文化財に指定されているんです。宮司さんも面白い方なので、ぜひ直接いろいろな話を聞いてみるのもいいかもしれませんね。」

語りべさんに
きいてみた！

「丹後ちりめんの特徴ってなんですか？」

「一番の特徴は、“シボ” っていう生地の表面の細かな凹凸のデコボコした質感ですね。そのシボをつくるのが強撚糸（きょうねんし）言う、強い “より” を入れた糸なんです。あと、ジャガードってゆう装置を使った柄の入った織織物



ですね。ちりめんと言えば基本的には絹を使って、縦糸には寄りの入らない生糸、横糸には強撚糸を使った平織ってゆう組織の織物になるんです。ただこれは決まりきった規則があるわけではなくて、僕は丹後で織られた織物をひっくるめて『丹後ちりめん』と呼んでいます。」

「時代の変化と共に業界全体はどのように変わってきていますか？」

「残念ながら、あんまりおもしろくないですけど、衰退の一途ってゆうところですかね。機屋の件数でゆうたら丹後全体で 1 万軒超えてたんですわ、昭和 50 年くらいは。でも今では 1,000 軒切りましたでねえ。ピークの時は県の予算より工業組合の予算の方が大きかったと言われてますね。いわゆる、「ガチャマン」って言われる時代ですよ。」

「若い人たちにはどんな使い方をすすめていますか？」

「やっぱり着物ですね。今時、特に若い人は絹自体に触れる機会があまり無いと思うんです。うちが工場見学受け入れてるってゆうのもそこにありましてね。やっぱり、ちりめんのことを知ってほしいし、触ってほしいし、絹の良さを知ってほしいってゆうことがあって。絹ってやっぱり高価ですからね。なので、小物とかさうゆうものを手に取ってもらうことで、ちょっとでもちりめんの事を知ってほしいってゆうのがありますね。まあでもやっぱり、着物を着ていただくことが一番ですね。」

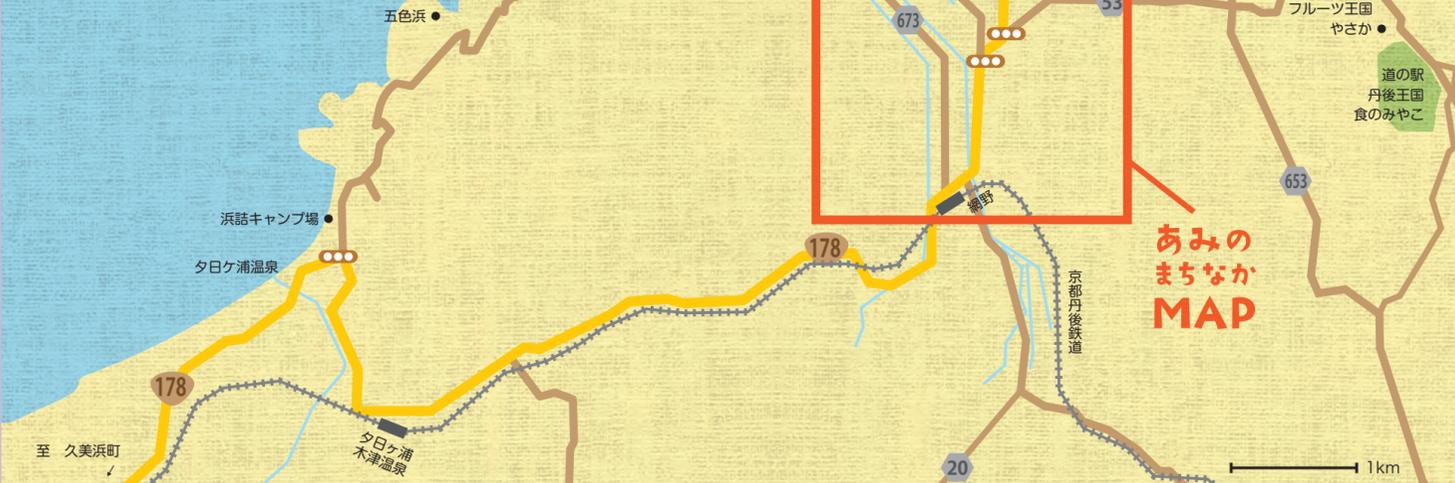
「日本文化のすそ野を支えている産業なので、
誇りを持ってやっていきます。」 語りべ 田茂井 勇人さん

あみの広域 MAP

自転車で
行こう♪



「丹後ちりめん」「海の幸」「自然・温泉」「伝説・文化」・・・京都府の北端、若狭湾を抱いてによって突き出した丹後半島・網野町。日本海に面した人口 1 万 6 千人の小さな町では、古代より大陸との交易が盛んでした。昔、京の西陣から技術が伝えられた絹織物「丹後ちりめん」、今でも街を駆け抜けると織機の音色が聞こえてきます。近くの漁港から取れた美味「海の幸」、港を見下ろす高台には全長 200m 近い日本海側最大の「前方後円墳」、夕日を見ながらの「温泉」、網野町にまつわる「伝説・文化」・・・網野町には世界に誇る多くの宝物が点在しています。



食

語りべさんに
きいてみた！

「バラ寿司がこのあたりの名物だと聞きましたが、どういう時に食べるお寿司なんですか？」

「昔はお祭りとかさうゆう時にほんまのごちそうゆう感じで食べてましたけどねえ。今はもう食べたいなあ思う時に。ほいで、私のところはもう、おぼろをザーッと炒って冷凍しといて、食べたいなあ思う時にそれ出してきて食べてます。昔はそんなつくってると時間のゆとりとか、そんなに余裕が無かったんだと思うよ、生活に。バラ寿司作るのって手間だねえ、意外に（笑）。」

「この辺の方って、どなたも皆作れるんですか？」

「作ると思うで。若い人も、丹後の出ならお母さんとかから教えてもらってる人も居ると思うし。バラ寿司は、味が甘い家もあるし、塩のきいた家もあるし、酸っぱい家もあるねえ。んで、お寿司おすそ分けしてもらったら、どこの家のかだいたいわかるもん。家によって味も中に入れる物も全て変わってくる。旬の野菜入れたり。松茸があればなおいいな！」

「なんでばら寿司は、この辺りの郷土料理として食べられるようになったんですか？」

「鯖がたんと獲れたから。鯖がよけ獲れたよ、昔は。安かったし。今とれな一でねえ。それに高いわ。昔は缶詰も大きい鯖が入ったつかけえど、こないだ買ったら魚がすごい小さかった。バラ寿司用の大きい缶詰の鯖缶ゆうたら、丹後しかないらしいわな。この辺では鯖缶そのものを食うとゆうよりは、バラ寿司専用、ゆう感じですね。」

「おみやあ、網野に来たら
海さ行かにゃあ損やで！」

語りべのみなさん



（お話を伺った語りべさんたち）（後ろ左から）神南美枝子さん、上島富美子さん、小長谷久美子さん（前左から）平正彦さん、田中隆夫さん、野村正彦さん

語りべさんに
きいてみた！

「まず、皆さんがオススメする網野で自然・景観が楽しめるイチオシの場所を教えてください！」
「そりゃあ、こころ辺だと鳴き砂が有名だねえ、だから琴引浜（ことびきはま）さ行ってほしいねえ。砂も海もきれいだしなあ。あとは、離れ湖や小天橋（しょうてんきょう）なんかも、いい景色が見られる場所やねえ。」

「僕たちは群馬から来ていますが、群馬に帰ると「空っ風」というとっても乾燥した風を体感すると、「あ〜、群馬に帰ってきたな」という気分になります（笑）。皆さんは、どこかにお出かけして網野に帰ってくる時に、どんな景色や自然を体感すると、「網野に帰ってきたな〜」と感じますか？」

「網野と言うより丹後に帰ってきたな一感じるの、電車に乗って由良海岸まで来たときに感じる潮風はね、「ああ、こっちまで帰ってきたな〜」思うよ。あとは、「ウラニシ」かな！」

「“ウラニシ”ってなんですか？」

「“ウラニシ”言うんはなあ、南からこっち（丹後方面）帰ってくるときに、空が真っ暗になるよ。冬場なんか特に（笑）。まあその風土が、丹後ちりめんにはよかったですよ。」

自然・景観



私たちは京都府京丹後市網野町から遠く離れた群馬県にある高崎経済大学と、鳥取県にある鳥取環境大学の大学生です。右も左も全く分からないよそ者の大学生である私たちが、ここ網野町を気の向くままに回ってみると、普段の日常では見られない景色やたくさんの魅力的な人たちと出会うことができました。「ジブリの世界に紛れ込んだような自然の豊かさ」「京都北部に 壮大な海の美しさ」・・・そして何より、網野町の普段の生活の魅力を実感し、「より多くの人に知って体験してもらいたい!!」と思い、この観光 MAP を作りました。この MAP では、私たちがいろいろな活動を通じて、出会った「語りべ」の皆さんが、網野の魅力を存分に伝えてくれています。もちろん町を回ると、文化・歴史・食・自然の魅力的なお話を「語りべ」の皆さんから、聞くことができるかもしれません。この地図の中では紹介しきれないほど、網野町には魅力的な人がたくさんいます。この MAP を手にした皆さんが、網野町に訪れ、多くの人に出会い、「また来たい」と思える、そんなつながりをつくってもらえれば・・・、私たちは思っています。